

全市立図書館

区分	評価指標	平成21年度	平成22年度	対前年度比	図書館運営全体						
図書館運営	基本的サービス(地区図書室分を含む)				自己評価		外部評価				
	資料購入費:決算数値(千円)	176,075	172,017	2.3%減	・資料購入費が減少しているが、限られた資料費の効率的な運用を図るため、利用状況・館の規模等に合わせた適切な予算の配分に努めた。 ・貸出冊数は、中央図書館が0.2%、北区が2.3%の減であるが、西蒲区は2.3%、南区は6.3%、秋葉区は7.1%増加した。全体数が増加しているのはオンライン化の効果と思われる。なお、北区の減は豊栄図書館が最後(12月)の統合となったためオンライン化のメリットが少なかったことも影響したと思われる。 ・平成21年度末の市の人口に対する登録率は22.7%、平成22年度末は20.0%である。新規登録者は増加したが、オンライン化による貸出カードの切り替え(1枚のカードに統一)により登録者が減少した。なお、新津図書館ではオンライン化以前、有効期限を過ぎた人もそのまま残していたこともあり、新津図書館だけで約13,000人の減少となった。各中心館では新規登録者の獲得について検討が必要と思われる。		○自己評価は、妥当と評価します。 ○限られた予算の中で、各館が努力していることを、評価します ○各区ごとの問題や課題について、図書館・協議会・ボランティア等で検討する機会があるとよいと思います。 ○貸出冊数や登録者数は、市全体で見ると良いと思います。 ○貸し出しを増やすための広報や、事業を積極的に実施して欲しい。 ○各館の入館者数を、項目に入れて欲しい。 ○高齢者に配慮した取組を実施して欲しい。 ○障がい者へのサービスは充実していて、とても評価します。外国人に対するサービスも充実して欲しい。				
	蔵書冊数(点)	1,707,800	1,741,066	1.9%増							
	貸出冊数(点)	4,638,465	4,644,259	0.1%増							
	登録者数(人)	181,979	160,051	12.0%減							
(内新規登録者数)	16,739	19,109	14.2%増								
区分	評価指標	平成21年度	目標値(平成22年度)	平成22年度	評点	評価(次年度への展開)					
施策・事業(オンライン各館)	課題解決型図書館				自己評価		外部評価				
	レファレンス件数(件)	7,600	7,900	新・総合計画	7,423	2	・中央図書館と秋葉区以外のレファレンス件数は昨年度と比較すると減っている。各中心館ではPR不足を上げている。中央図書館のPR方法等を参考にしながら取組むよう指導したい。 ・ビジネス支援サービス相談受付件数は、中央図書館に特化した目標値である。 ・オンライン化の効果により、ホームページアクセス数や予約件数が大幅に増加した。ホームページを利用した予約が市民に浸透していると思われる。なお、この内インターネット・OPACの予約件数は38万5千件(約67%)である。		○課題解決を目指した取組は、評価します。 ○各中心館は、レファレンスについてのPRや窓口対応の工夫等を検討し、増加に繋げて欲しい。 ○豊栄図書館のカウンターは、委託のせい、レファレンスがしにくくなったと思います。		
	個人予約件数(件)	487,500	520,000	教育ビジョン	575,536	4					
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	319	270	教育ビジョン	330	4					
	ホームページアクセス件数(件)	1,449,227	1,460,000	新・総合計画	1,657,851	4					
	分権型図書館				自己評価		外部評価				
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	81,200	81,200	前年度並み	90,845	4	・各館での郷土・行政資料は収集内容を広げるなど所蔵冊数を増やし、特色ある図書館づくりに努めたが、貸出冊数の増加には繋がらなかった。これは、平成21年度の貸出冊数が「天地人」効果により、関連資料の貸出が各館で多かったためと考えられる。評価指標の再検討も必要と考えている。		○各館ごとの、地域性を強調した資料収集を進めて欲しい。 ○各館の蔵書をPRして欲しい。 ○蔵書を活かす取組を実施して欲しい。		
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	40,700	40,700	前年度並み	35,788	2					
	学・社・民融合型図書館				自己評価		外部評価				
	児童書の貸出冊数(冊)	1,068,720	1,126,000	教育ビジョン	1,077,221	2	・児童書の貸出冊数、小中学生への貸出冊数はどちらも目標値に達しなかった。児童数が年々減少しており、目標値を再検討することも必要と考える。また、展示会や事業の開催時に関係する図書館資料を紹介し、その場で貸し出す等、貸出増加に繋がる取組を各館で検討する必要もある。 ・「新潟市子ども読書活動推進計画」に基づく様々な事業を実施するとともに、学校への支援についてPRに努めたことにより、事業参加者数・職場体験受入人数・派遣職員数が増加した。		○児童1人当たりの冊数で、評価した方がよいと思います。 ○児童数が年々減少しているため、貸出冊数の目標値を再考すべきと思います。 ○図書館全体で事業を拡大し、参加者が増えたことは評価します。それが貸出とリンクする取組の実施を期待します。 ○子どもたちの、クラブ活動(スポーツ)・学習面での支援に繋がる取組を検討して欲しい。		
	小中学生への貸出冊数(冊)	467,260	483,000	教育ビジョン	464,901	2					
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	17,087	18,500	教育ビジョン	19,977	4					
	職場体験受入人数(人)	190	220	組織目標	250	4					
	講師等としての派遣職員数(人)	223	210	組織目標	296	4					
	パートナーシップ型図書館				自己評価		外部評価				
	図書館事業のボランティア活動者数(人)	697	690	組織目標	752	4	・ボランティア活動者数が増加しているのは、中央図書館での対面朗読等協力者養成講座をはじめ、各中心館で読み聞かせボランティア養成講座の開催など、ボランティアの募集と育成に努めたためと思われる。 ・ボランティア団体交流会の参加者が増加したのは中央図書館が友の会と共催で実施したボランティア交流会への参加者が30人から54人に増加した分である。その他、中央図書館での読み聞かせボランティア交流会や西川図書館のボランティア交流会も引き続き実施し、利用者懇談会は西川図書館で実施した。 ・共催事業は、中央図書館が32件で約半数を占めるが、各中心館でも様々な団体と実施しており、目標を上回った。		○ボランティアの育成や活動支援、共催事業の実施等について、評価します。 ○ボランティア交流会とボランティア研修会の実施を、各館で実施して欲しい。 ○ボランティア全体を統括する「ボランティア連絡協議会」を組織して欲しい。 ○利用者懇談会の必要性に疑問を持っている。図書館へのたより、図書館協議会、ボランティア団体との意見交換等がよいと思う。		
	ボランティア団体交流会参加者数(人)	70	70	前年度並み	91	4					
	利用者懇談会の開催回数(回)	1	1	西川図書館	1	3					
	共催事業の実施回数(回)	55	55	前年度並み	79	4					
	運営(職員)				自己評価		外部評価				
研修参加職員数(人)	200	200	組織目標	185	2	・レファレンス研修や、初任者研修、機器の操作研修等様々な研修を実施するとともに、県立図書館や市外への研修派遣など、職員の資質向上に努めた。平成22年度はオンライン化該当館職員の操作研修を中心に実施したため参加者数が目標値に達しなかった。 ※各館からの参加者を含めた目標値のため、中央図書館の数値と同じになっている。			※中央図書館評価に同じ		

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針, 新・総合計画:市の目指す都市像に向けた行政計画, 組織目標:市が実施している組織ごとの行政評価